

震度7想定し防災訓練

宇都宮市 78団体2500人参加

【宇都宮】市は17日、大地震による被災を想定した本年度の総合防災訓練を、宇都宮大峰キャンパスで実施した。国や県、市内各地区の自主防災会など計78団体約2500人が参加し、避難所の開設や被災者の救助など、さまざまな訓練に取り組んだ。

訓練は市東部を震源とする震度7の直下型地震が発生し、多数の建物倒壊や道路などライフラインに被害が出たという想定で実施。

会場となった宇大と市、地域が連携した避難所の開設

・運営訓練や、市上下水道局と業界団体による応急給水訓練などが展開された。

避難場所までのペットと同行避難や、避難所でのペット受け入れスペースの確保といった試みもあった。地元高峰地区防災会長の関口忠司さん(69)は「地域の防災意識を高める良い機会になった。いざという時に、この経験を役立ててほしい」と話していた。

(小池竜太)

バケツリレーによる初期消火訓練も実施した市総合防災訓練

